

営農ファイル

農産園芸部門

農作業メモ

2月号

ハウス胡瓜

胡瓜に太陽光が当たるように、整枝・摘葉・誘引して日照量確保に努めてください。

草勢が弱っている場合は摘芯を控え、摘葉で整枝してください。

着果量が多くなり尻太果・曲り果が増えてくるので、早めに摘果を行い草勢維持と秀品率向上に努めましょう。

夕方の気温が高くなってくるので二重ビニールの活用と外ビニールの閉め込む温度に注意してください。循環扇や暖房機を活用し、湿度が高くならないように注意してください。

灌水は、1回の量が多いと地温が低下するので少量多回数灌水に努めてください。

気温の上昇に伴い、病虫害被害の発生が懸念されます。適期防除に努めましょう。特に黄化えそ病の媒介

虫であるミナミキイロアザミウマ、退緑黄化の媒介虫であるコナジラミの防除を徹底し、黄化えそ病の発病株は直ちに抜根してください。

ダニ類（特にホコリダニ）の発生も散見されていますので、防除をお願いします。

発生が見られない圃場につきましても、予防防除に努めるようお願いいたします。

スイートコーン

ネキリ虫防除：ガードバイトA 3kg/10a 株元散布。

発芽適温は25度〜30度。平均気温が15度で、9〜11日で発芽開始。地温を十分確保してから播種を行ってください。

いちご

寒暖差により、株自体がストレスを感じています。発根剤、追肥等を用いて草勢回復に努めましょう。肥効が鈍くなっているため葉面散布を用いてください。

また、ハウス内湿度が高いため、こまめな換気を行い多湿条件下にならないよう注意をお願いします。白斑葉枯病発生の助長にもなります。軟弱葉に対してはカルシウム剤（フアイトカル等）やケイ酸資材（メイ

ンステイカルシウムSi等）利用し、進行抑制を行ってください。

トマト類

寒い時期に入り肥効が鈍っています。通常の追肥の繋ぎとして、液肥を使用してください。

着果負担等の影響により樹勢が弱っています。葉面散布等をこまめに行い、樹勢回復に努めましょう。

急激な温度低下日や雨天の後は、疫病が懸念されます。早朝1番見、早期対応を心掛けてください。葉の混みや病害葉には灰色カビが発生しますので早めの摘葉を行ってください。併せてハウス内の空気循環も行うようお願いいたします。

イチゴ

成り疲れ等の樹勢低下に気をつけてください。摘花を実施すると共に、発根剤・葉面散布を実施し樹勢回復に努めてください。また、うどんこ・ダニ・スリップスの防除の徹底をお願いします。

ぶどう

トンネルビニール被覆：作型によって決めてください。
芽傷処理：先端部の芽だけ発芽

し、茎部の芽が発生しないことが多い。樹液の流動が始まる直後に、先端1〜2芽を除いた芽に芽傷を入れてください。（発芽の3週間前）
アミノ酸系液肥の塗布：メリット青を芽に塗布してください。

きんかん

収穫中は、裂果を抑制するため節水管理とします。リング抜けを促進する為少量多灌水を行ってください。

収穫終了後は、樹勢回復のため少しずつ水を戻しましょう。（乾燥状態からの急激な灌水は、落葉を助長するので注意が必要）また、土壌分析を行い、春肥の施用も行ってください。カイガラムシ及びハダニの防除を行うようお願いいたします。

露地みかん

整枝・剪定：色抜け（着色）を良くし、日焼け果の発生を少なくするため、剪定を行い長い春芽を確保しましょう。枝の切り返しはしないように、間引き剪定を主体に行うようお願いいたします。